

ラグビーワールドカップ 2019™・東京 2020 オリンピック・パラリンピックの課題について

両大会の成功に向けて、大会の開催準備をはじめ、スポーツ振興、文化芸術振興、横浜の魅力・活力を世界に発信することを通じて、横浜の飛躍につなげていきます。これらにオール横浜で取り組んでいくため、平成 28 年 11 月に「横浜ビジョン」として策定し、取組の方向性や課題をテーマ別に「取組の 4 つの柱」として整理しました。

取組の 4 つの柱

1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

- (1) 関係機関と連携・協力による本市で開催される競技の円滑な大会運営 (※1)
 - ※1・競技会場における各種計画（危機管理、交通輸送、救急医療等）の策定・実施
 - ・競技会場における必要な整備
 - ・ボランティアの育成、活用等
- (2) 両大会に向けた機運醸成 (※2)
 - ※2・全市レベルのイベントの企画・実施（カウントダウンイベントの展開等）
 - ・区レベルの取組の推進
- (3) トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流の推進、国際人材の育成

2 スポーツを通じて横浜を元気に

- (1) ラグビー競技の普及、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興 (※3)
 - ※3・ラグビー元日本代表、オリンピック・パラリンピアンとの交流による子どもたちの運動意欲の向上
 - ・横浜文化体育館の再整備によるスポーツの場の拡充
 - ・総合型地域スポーツクラブの育成・活動支援
- (2) 障害者スポーツの推進
- (3) 子どもたちの運動に親しむ資質や能力の育成、体力の向上、スポーツに関わる人材の育成
- (4) スポーツなどを通じた健康づくりの推進

3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

- (1) 文化プログラムの実施によるまちの賑わいの創出と横浜の魅力の発信
- (2) 子どもたちの文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援による次世代育成
- (3) 市民の地域文化芸術活動への参加、いきいきと活動できる環境の整備、文化芸術活動への支援
- (4) 創造的人材と企業や地域との協働、創造的産業の集積・振興、創造性を生かしたまちづくり推進

4 横浜を世界に魅せる

- (1) 「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信による「千客万来のまちづくり」の推進
- (2) 来訪者の滞在環境の向上 (※4) や来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくり
 - ※4・多言語対応
 - ・通信環境、案内サインの整備
- (3) 再生可能エネルギー等の活用など世界のモデルとなるスマートシティの実現
- (4) 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市横浜の発信

ラグビーワールドカップ2019™
東京2020オリンピック・パラリンピック
に向けた
横浜ビジョン

～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～

平成28年11月

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック
横浜開催推進委員会

目次

1 基本姿勢

2 取組の4つの柱

3 4つの柱別の主な取組とレガシー※

4 主なスケジュール

参考1 ラグビーワールドカップ2019™について

参考2 東京2020オリンピック・パラリンピックについて

参考3 オリンピックにおける「文化プログラム」について

※レガシー

オリンピックにおいては、オリンピック憲章(「IOCの使命と役割」)で、「オリンピック競技大会の有益な遺産(レガシー)を、開催国と開催都市に残すことを推進すること」とされており、ラグビーワールドカップ™においても同様に、開催自治体に対して「レガシープログラム(大会の開催を通じて創り上げる資産を将来に生かすための活動)」に協力することが求められています。

1 基本姿勢

- オール横浜でラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に最大限貢献します。
- スポーツと文化芸術を両輪とした取組により、賑わいと活力を創出します。
- 世界中から様々な人々が訪れる両大会、とりわけパラリンピックを契機に誰もが互いに尊重し、支え合う共生社会の実現を目指します。
- 両大会に向けた取組の成果を「次の世代への贈り物(レガシー)」として遺し、横浜のさらなる飛躍につなげます。

2 取組の4つの柱

(1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

ラグビーワールドカップ2019™は決勝戦開催都市として、東京2020オリンピック・パラリンピックは競技開催都市として、関係機関と連携して円滑な大会運営に取り組むとともに、国内外から訪れる皆様を全力でおもてなしします。

ソフト・ハード両面でのバリアフリーを推進するとともに、開催都市プロモーション・広報やイベントなどによる機運の醸成や、トレーニングキャンプの受入れ等を通じた国際交流などで両大会を大いに盛り上げ、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックに対して最大限の貢献をしていきます。

(2) スポーツを通じて横浜を元気に

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指します。

(3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

人々の活力や市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。文化芸術の持つ創造性を様々な施策に生かし、コミュニティの活性化を図るなど創造的なまちづくりを進めます。

横浜ならではの文化プログラムを実施し国内外に発信するとともに、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

(4) 横浜を世界に魅せる

横浜のプレゼンスやブランド力を高めるためのシティプロモーションを展開し、文化芸術創造都市、環境未来都市、世界に開かれた国際都市、ビジネスチャンスあふれる都市など、横浜が持つ様々な姿を世界に魅せていきます。

また、国内外からの誘客を強化し、観光客など来訪者の滞在環境や回遊性を一層充実させるほか、MICE機能の強化やビジネス環境の向上を進め、さらなる賑わいと活力を創出します。

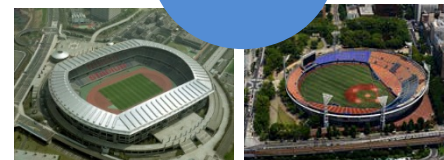
(1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

* 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します

主な取組

- ①競技会場における各種計画(警備、安全確保、救急医療体制など)の策定・実施
- ②競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応
- ③組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用

円滑な
大会運営



* 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます

主な取組

- ①機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施
- ②来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組
- ③ラグビーワールドカップ2019™ファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし

ファンゾーンの
設置



* トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます

主な取組

- ①トレーニングキャンプの受入れに向けた調整
- ②ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進
- ③文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成

英国オリンピック
代表チームの事前
キャンプ地に決定



英国オリンピック委員会、JOC、横浜市、川崎市及び慶應義塾大学の5者による覚書締結。

取組から
生まれるレガシー

- 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
- ソフト・ハード両面でのバリアフリーの推進
- ボランティア文化の醸成・定着
- トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
- 多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成

(2) スポーツを通じて横浜を元気に

- * ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます

主な取組

- ①オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上
- ②市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興
- ③ラグビーワールドカップ2019™開催を契機としたラグビーの普及・啓発

運動意欲
の向上



- * 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます

主な取組

- ①学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）
- ②横浜ラポールと連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進

- * 子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます

主な取組

- ①市内小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組
- ②横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成

健康づくりの
ムーブメント



- * 本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます

主な取組

- ①ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進
- ②高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進

取組から
生まれるレガシー

- スポーツ実施状況の向上
- パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進
- 子どもたちの体力向上
- 市民の健康増進

(3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します

主な取組

- ①横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの実施
- ②環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(パラトリエンナーレなど)の実施

* 子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組めます

主な取組

- ①子どもたちの文化芸術体験の取組の充実
- ②新進アーティストの発掘・育成・支援

* 一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います

主な取組

- ①地域における文化芸術活動の拠点機能の充実
- ②地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援

* アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます

主な取組

- ①企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出
- ②アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり

横浜らしい
文化プログラム



ヨコハマトリエンナーレ2014
マイケル・ランディ
《アート・ピン》2010/2014
撮影:加藤健

創造性を生かした
まちづくり



取組から
生まれるレガシー

- 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上
- 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
- 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現
- アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開

(4) 横浜を世界に魅せる

- * 「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます

主な取組

- ①横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開
- ②インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり

- * 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます

主な取組

- ①バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供
- ②花や緑による賑わいの創出
- ③都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上

- * 再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します

主な取組

- ①エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用
- ②環境に配慮したライフスタイルの推進
- ③みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組を推進

- * 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します

主な取組

- ①MICE機能や客船の受入機能の強化
- ②ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大

花と緑による賑わいの創出



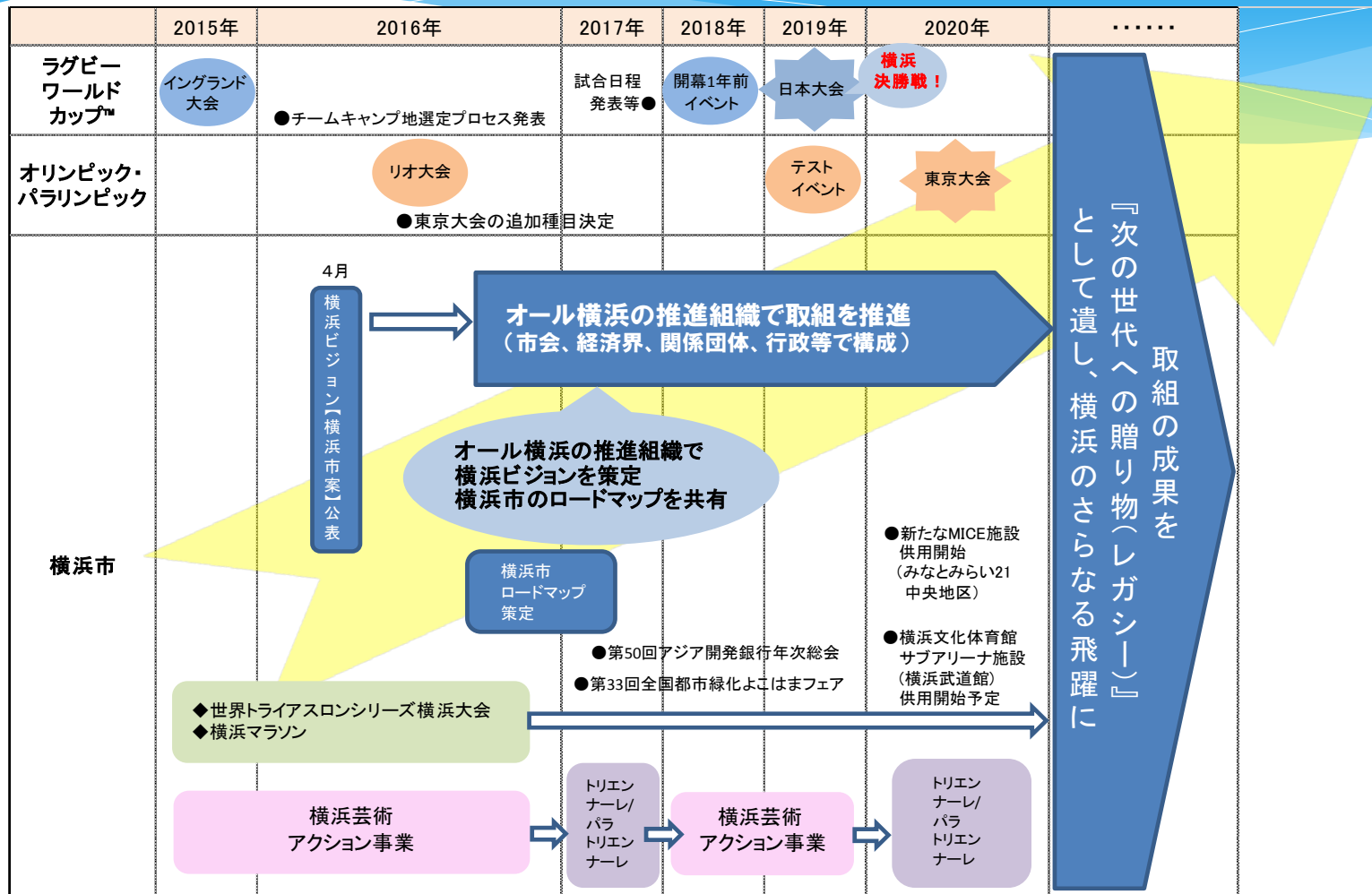
客船の受入機能強化



取組から生まれるレガシー

- 「選ばれる都市 横浜」の実現
- 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
- 快適な滞在環境の整備(案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち)
- 「国際的なMICE拠点都市」の実現

4 主なスケジュール



* リオデジャネイロ2016大会後に、市会、経済界、関係団体等の皆様と行政によるオール横浜の推進組織を立ち上げ、横浜ビジョンを策定し、オール横浜でラグビーワールドカップ2019™・東京2020大会に向けた取組を推進していきます。あわせて、横浜市の取組をとりまとめたロードマップについてもオール横浜の推進組織で共有します。

* 2019年・2020年までの間には、第33回全国都市緑化よこはまフェアや第50回アジア開発銀行年次総会等が行われます。こうした様々な機会を生かしながら、2019年・2020年に向けて横浜のさらなる飛躍に取り組めます。

参考1 ラグビーワールドカップ2019™について

4年に一度開催され、代表20チームが世界一を競い合う世界最大のラグビーの国際大会です。オリンピック、FIFAワールドカップと共に世界三大スポーツイベントのひとつとされています。

1987年の第1回大会からラグビーの伝統国を開催国として8回にわたって開催されてきました。第9回の2019年は、アジアで初めてとなる大会が日本で、そして横浜で開催されます。

横浜国際総合競技場では決勝戦の開催が予定されており、2002FIFAワールドカップに続き、決勝戦の会場となります。

また、大会開催期間中は市内にファンゾーンが設置され、競技会場だけではなく、市内で広く盛り上がり、横浜が大いに賑わうことが期待されます。

* ラグビーワールドカップ2019™大会の概要

- 1 開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)(約6週間)
- 2 参加チーム 20チーム(予定)
- 3 試合数 48試合(予選40試合、決勝トーナメント8試合)
- 4 試合会場 全国12会場で開催
決勝戦 11月2日(土)横浜国際総合競技場
- 5 海外からの渡航客 40万人(想定)※1
- 6 経済波及効果 約4,200億円(想定)※1

※1 会計事務所アーンスト・アンド・ヤング試算

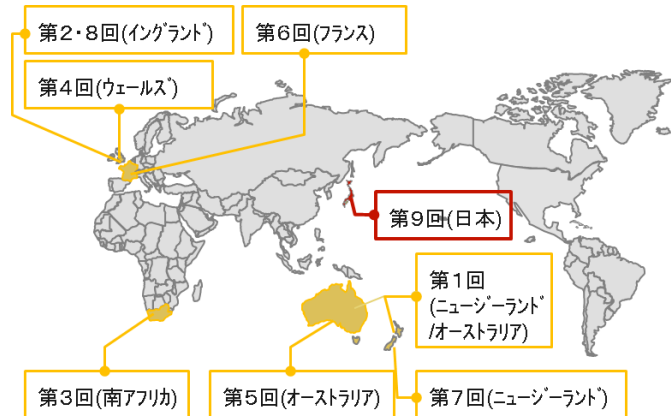
ラグビーワールドカップ2015™(※2)

- 1 チケット販売枚数 247万枚
- 2 ファンゾーン来場者 100万人
- 3 決勝戦観戦者 1億2000万人
(テレビ視聴者含む)
- 4 参加ボランティア 6,000人

※2 「イングランドラグビー2015プレスオフィス」より



トゥイッケナム・スタジアム
(イングランド)



* ファンゾーンとは

公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップ™に関する体験を提供するスペース。



リッチモンド/オールドパーク
ファンゾーン (イングランド)

参考2 東京2020オリンピック・パラリンピックについて

オリンピックは四年に一度開催される世界的なスポーツの祭典で、スポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的とし、夏季大会と冬季大会を行っています。パラリンピックは障害者を対象とした、もうひとつのオリンピックです。4年に一度、オリンピック競技大会の終了直後に同じ場所で開催されています。

今回の東京2020オリンピック・パラリンピックでも、サッカー競技が横浜国際総合競技場で、さらに、追加された野球・ソフトボール競技が横浜スタジアムで開催される予定となっており、前回の東京大会に引き続き、オリンピックの競技開催都市となります。

* 東京2020オリンピック・パラリンピックの概要

1 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

- (1) 開催期間 2020年7月24日(金)～8月9日(日)(17日間)
- (2) 競技数 33競技 ※1

2 東京2020パラリンピック競技大会

- (1) 開催期間 2020年8月25日(火)～9月6日(日)(13日間)
- (2) 競技数 22競技

※1 28年8月に開催されたIOC総会で5競技の追加が決定
「野球・ソフトボール」、「空手」、「スケートボード」、「スポーツクライミング」、
「サーフィン」(計5競技18種目)

《参考》 1964年東京大会と横浜

前回の東京大会では、三ツ沢公園球場でサッカー競技が、横浜文化体育館ではバレーボール競技が開催されるとともに、大会開催に合わせて「オリンピック理解運動」や「国際理解運動」など、様々な市民活動も行われました。



国旗などがはためく1964年大会時の横浜文化体育館

* ホストタウンの取組について

政府において、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、全国の自治体と大会参加国・地域との人的、経済的、文化的な相互交流を図るとともに、スポーツ立国、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から「ホストタウン構想」を推進しています。

ホストタウン構想では、東京2020オリンピック・パラリンピック参加国と自治体との間で、交流計画を作成し、大会の前後を通じて交流の取組みを行います。

* トレーニングキャンプについて

ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックとも、大会に参加するアスリートのコンディション調整やパフォーマンスの維持・向上を図るため、開催地の周辺都市等で各国・地域の代表チームのトレーニングキャンプが実施されます。

トレーニングキャンプが市内で実施されることにより、ホストタウン構想と同様、市民と大会参加国・チームとの交流の機会が生まれます。

参考3 オリンピックにおける「文化プログラム」について

オリンピックはスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあります。オリンピック憲章では、オリンピズムの根本原則として「スポーツと文化と教育の融合」を謳っており、オリンピック開催国の大会組織委員会は複数の文化イベントからなる「文化プログラム」を計画しなければならないと規定されています。


特に、2012年のロンドン大会においては、大会開催4年前の2008年から「カルチュアール・オリンピアド」と題した大規模な文化プログラムが、ロンドンのみならず英国全土で開催されました。合計18万件にも及ぶ様々な文化イベントに、延べ4,300万人が参加し、近代オリンピック史上、最大の規模と内容で展開されました。このロンドン大会を期に、オリンピックにおける文化プログラムの位置づけや役割が大きく変化し、大会成功のための重要な要素となっています。

また、国においても、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした「文化芸術立国」の実現のために、東京2020オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019の機会を生かし、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進し、ロンドン大会を超える20万件の文化イベントの実施・5,000万人の参加を目指しています。

横浜市は、上記大会組織委員会や国の文化プログラムと連携し、横浜ならではの文化プログラムの展開等により賑わいや活力の創出を図ります。

	2012ロンドン大会(実績)	2020東京大会(目標*)
開催時期	2008年9月～2012年9月	2016年9月～2020年9月
開催場所	英国全土で1,000か所以上	全国で1,700か所以上
イベント総数	177,717件	200,000件
参加アーティスト数	40,464人	50,000人
関係機関間の連携(文化芸術団体、教育機関、企業等)	10,940件	15,000件
総参加者数	4,340万人	5,000万人

※平成27年4月10日
「オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組」より



ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック
横浜開催推進委員会

平成28年11月作成

(事務局)横浜市市民局スポーツ振興課


横浜市中区港町1-1

Eメール sh-sports@city.yokohama.jp

電話番号 045-671-3690

ファクス番号 045-664-0669

ウェブサイト <http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/>



ラグビーワールドカップ 2019™
東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた
横浜市の取組
<概要版>

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック に向けた横浜市の取組とは

「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～」(以下、「横浜ビジョン」)に掲げられている「取組の4つの柱」に基づいて、横浜市が行う両大会に向けた取組や、取組から生まれるレガシーを「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜市の取組」(以下、「横浜市の取組」)としてまとめました。

横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していきます。

「横浜ビジョン」に基づく「取組の4つの柱」について

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

関係機関と連携して円滑な大会運営に取り組むとともに、国内外から訪れる皆様を全力でおもてなしします。

ソフト・ハード両面でのバリアフリーを推進するとともに広報やイベントなどによる機運の醸成や、トレーニングキャンプの受入れ等を通じた国際交流などで両大会を大いに盛り上げ、両大会に対して最大限の貢献をしていきます。

(「横浜ビジョン」P4参照)

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

両大会を契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指します。

(「横浜ビジョン」P5参照)

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

人々の活力や市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。

文化芸術の持つ創造性を様々な施策に生かし、コミュニティの活性化を図るなど創造的なまちづくりを進めます。

横浜ならではの文化プログラムを実施し国内外に発信するとともに、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

(「横浜ビジョン」P6参照)

柱4 横浜を世界に魅せる

横浜のプレゼンスやブランド力を高めるためのシティプロモーションを展開し、文化芸術創造都市、環境未来都市、世界に開かれた国際都市、ビジネスチャンスあふれる都市など、横浜が持つ様々な姿を世界に魅せていきます。

また、国内外からの誘客を強化し、観光客など来訪者の滞在環境や回遊性を一層充実させるほか、MICE機能の強化やビジネス環境の向上を進め、さらなる賑わいと活力を創出します。

(「横浜ビジョン」P7参照)

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

関係機関と連携・協力し、円滑な大会運営に取り組むとともに、競技会場等について、必要な設備更新や、観戦者を含む来街者の円滑な移動等に向けたバリアフリー対応などに取り組めます。



<横浜国際総合競技場>

- ・ラグビーワールドカップ2019™決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。
- ・国際大会の開催時の安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。



©YDB

<横浜スタジアム>

野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。

節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。



ストリートラグビー体験

(横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2016)



パラリンピック競技(ブラインドサッカー)体験

(横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2016)

節目ごとのカウントダウンイベントの開催や、各区における機運醸成イベントの実施、区民まつり等各種既存イベントと連携したPR活動、パラリンピック競技体験の実施などにより、両大会に向けた機運醸成を図っていきます。

関係団体と連携しながら、英国オリンピック代表チームの事前キャンプを受入れます。



横浜市において、東京2020大会における、英国オリンピック代表チームによる事前キャンプが実施されます(※1)。横浜市では、適切な練習環境の提供など、英国チームをしっかりと迎えるとともに、英国のホストタウン(※2)として、スポーツ、文化、教育の分野など幅広い交流機会の創出を目指します。また、英国の実施状況を見極めながら、更なる受け入れについても、調査・検討を進めます。

※1 平成29年3月、英国オリンピック委員会との間で、横浜国際プールにおける英国代表チームによる事前キャンプ実施に関する契約を締結

※2 平成28年1月、国主導の制度「ホストタウン構想」に登録済み

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと、小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上に取り組みます。

東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいたイベント開催するなど、市内のスポーツ振興と大会の機運醸成を図ります。

また、はまっ子スポーツウェーブ（小学校体育大会・小学校水泳大会等）や中学校総合体育大会などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。



写真上
オリンピックによる学校訪問
(走り方教室)



写真右上
パラリンピアンによる学校訪問（講演）

写真右下
はまっ子スポーツウェーブへのオリンピックの派遣

ラグビーワールドカップ™出場経験者による講演・タグラグビー実技授業



ラグビーワールドカップ2019™の開催に向けて、市内の小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。

学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発に取り組みます。

障害のある方がいつでも身近な地域で障害者スポーツを行えるようにするため、各区スポーツセンターや地区センターなどの地域資源と連携を進め、障害者スポーツを行える場を確保するとともに、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。

また、障害の有無に関わらず共に楽しむことができるよう、障害者団体や競技団体、地域スポーツ団体と連携しながら、誰もが安心して参加できるスポーツイベントを検討し、実施します。

写真右
ボッチャ交流会
(障害者スポーツ文化センター横浜ラポール)



柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します。



写真左
 横浜トリエンナーレ 2014 マイケル・ランディ
 《アート・ピン》2010/2014/撮影：加藤健



写真上
 Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015
 横浜ダンスパレード photo : bozzo



写真左
 横浜音祭り 2016 西本智実指揮
 イルミナートフィルハーモニーオーケストラ
 (c) oono ryusuke

横浜トリエンナーレ（現代アート）・横浜芸術アクション事業（ダンス・音楽）といった横浜らしい特色ある芸術フェスティバルを継続的に開催し、「文化芸術創造都市・横浜」のプレゼンス向上を図ります。

子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援など学校や地域で次世代育成に取り組みます。また、文化芸術の創造性を生かし、障害のある方が新たな芸術表現を生み出す現代アートの国際展の開催や文化芸術活動に参加するためのネットワークづくりを進めます。



芸術文化教育プログラム推進事業 実施の様子
 (市立末吉小学校/美術 (造形))

学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを展開し、芸術文化の力により次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成します。



ヨコハマ・バラトリエンナーレ 2014
 photo:427FOTO

障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルの協働により新たな芸術表現を創造・発信するとともに、横浜トリエンナーレとも連携し、まちの賑わいと祝祭感を創出します。

柱4 横浜を世界に魅せる

外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達できるための案内環境の整備や、Wi-Fi整備による通信環境の向上に取り組みます。

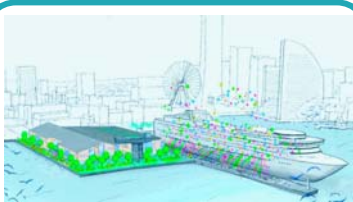


- ・案内サイン等の整備に取り組みます。
 - ◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施
 - ◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル
- ・Wi-Fi環境を整備します。
 - ◇みなとみらい21地区等
 - …主要な歩行者空間等における、Wi-Fiの早期整備
 - ◇都心臨海部、新横浜
 - …公民連携による、来訪者の利便性向上に資する通信環境整備

客船受入機能の強化やMICE機能の強化、地区内の回遊性向上等により、多くの人を惹きつける都心臨海部のまちづくりを推進します。



横浜港大さん橋国際客船ターミナル



新港地区客船ターミナル整備イメージ



MICE施設イメージ図(20街区)
※本イメージ図は2017年1月末時点の情報をもとに作成。
今後変更される可能性があります。

- ・客船受入機能を強化するため、大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充、新港地区客船ターミナルの整備、大黒ふ頭の自動車専用船岸壁を活用した超大型客船受入施設の整備を実施します。
- ・横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)に新たなMICE施設を整備します。
- ・都心臨海部において、来街者の利便性を更に高めるため、「高度化バスシステム」(連節バスを活用した新たな交通)を導入します。

きれいな街並みに向けた環境整備に取り組みます。



- ・会場周辺において、清潔な街並みによる居心地の良い環境の実現に向けた取組を実施します。
 - ◇歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせた清掃等の実施
 - ◇会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないよう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施
 - ◇多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能(公衆トイレ・喫煙所)の検討、整備
 - ◇公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示板の設置及び洋便器化の推進
 - ◇大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止パトロールを集中的に実施するほか、臨時喫煙所を設置
- ・喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化を推進します。

「横浜市の取組」掲載一覧

「柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」

* 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します

- ①競技会場における各種計画（警備、安全確保、救急医療体制など）の策定・実施
ア 危機管理・安全対策
イ 交通・輸送対策
ウ 救急医療体制の構築
エ 外国人診療の支援
- ②競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応
ア 会場整備【再掲】
イ 屋外広告物への対応
- ③組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用
ア 大会運営ボランティアの育成・活用

* 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます

- ①機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施
ア 既存広報誌、市ホームページを活用した広報
イ 情報発信拠点の設置
ウ 盛り上げイベント等の実施【再掲】
エ 既存イベントと連携した機運醸成【再掲】
オ テストイベントと連携した機運醸成
カ 街の装飾
キ 市民参加による聖火リレー
ク パブリックビューイングの実施
- ②来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組
ア 都市ボランティアの育成・活用
- ③ラグビーワールドカップ 2019TMファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし
ア ファンゾーンの設置

* トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます

- ①トレーニングキャンプの受入に向けた調整
ア 事前キャンプの受入【再掲】
- ②ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進
ア ホストタウンの取組【再掲】
- ③文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成
ア グローバル人材の育成等

「柱2 スポーツを通じて横浜を元気に」

* ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます

- ①オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上
ア オリンピック・パラリンピック出場経験者の派遣【再掲】
イ 小中学生とオリンピック・パラリンピック出場経験者等との交流【再掲】
ウ 市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣【再掲】
エ トップアスリート等との連携・協力
オ 大規模スポーツイベントの誘致・開催
カ スポーツ遺産の保存・活用
- ②市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興
ア スポーツボランティアの育成・支援
イ 市民大会・区民大会の定期的な開催（初心者が参加できる工夫）
ウ 大規模屋内スポーツ施設（スケート場、武道館等）の再整備
エ スポーツ情報等の提供
- ③ラグビーワールドカップ 2019TM開催を契機としたラグビーの普及・啓発
ア 小学校派遣事業（市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣）【再掲】
イ カウントダウンイベントの開催
ウ 日本代表戦やジャパントップリーグ等の試合誘致

* 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます

- ①学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）
ア 障害者スポーツの場の確保と種目の普及【再掲】
イ 障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施【再掲】
- ②横浜ラポールと連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進
ア 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透
イ 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業
ウ パラトライアスロンの強化

***子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます**

①市内小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組

- ア 体力アップよこはま 2020 プランに基づく取組の実践
- イ 食育の推進
- ウ 東京 2020 大会を契機とした、体育的行事等による運動意欲の向上
- エ 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成
- オ 幼児期における運動習慣の啓発・普及活動
- カ 子どもの体力向上事業の実施及び拡充

②横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成

- ア スポーツマネジメント人材の育成

***本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます**

①ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進

- ア 370 万人の健康づくりの推進

②高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進

- ア 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施
- イ 生涯スポーツへの支援(シニアスポーツの展開・レクリエーションを主体としたスポーツ大会の開催 等)

「柱 3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」

***横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します**

①横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの推進

- ア 文化プログラムの推進【再掲】

②環境技術を活用したアートイベント（スマートイルミネーション）やユニバーサルな文化事業（パラトリエンナーレなど）の実施

- ア 環境技術を活用したアートイベントの実施
- イ ユニバーサルな文化事業の実施【再掲】

***子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組みます**

①子どもたちの文化芸術体験の充実

- ア 横浜トリエンナーレ事業を通じた次世代育成【再掲】
- イ 横浜芸術アクション事業を通じた次世代育成【再掲】

②新進アーティストの発掘・育成・支援

- ア プラットフォームの設立・運営

***一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います**

①地域における文化芸術活動の拠点機能の充実

- ア 障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みの整備

②地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援

- ア 横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトの構築

***アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます**

①企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出

- ア プラットフォームの設立・運営【再掲】

②アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり

- ア プラットフォームの設立・運営【再掲】

「柱 4 横浜を世界に魅せる」

***「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます**

①横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開

- ア 横浜都心のまちづくりや、広域ネットワークの整備による、都市の魅力向上
- イ シティプロモーションの展開
- ウ 国内外からの集客の推進

②インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり

- ア 外国人観光客の快適な滞在環境の提供
- イ 商店街のインバウンド対応強化への支援

*** 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化（花）等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます**

- ①バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供
- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| ア 会場周辺駅のバリアフリー化 | イ 案内サイン多言語化など、案内環境の向上【再掲】 |
| ウ Wi-Fi整備による、通信環境の向上【再掲】 | エ 良質な宿泊施設の立地促進による、滞在環境の向上 |
| オ きれいな街並みに向けた環境整備【再掲】 | カ 快適な滞在を下支えする、安全・安心なまちづくりの推進 |
- ②花や緑による賑わいの創出
- | | |
|---------------------|------------------------|
| ア 都心臨海部の緑花による賑わいづくり | イ 第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催 |
|---------------------|------------------------|
- ③都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上
- | |
|-----------------------|
| ア 都心臨海部における回遊性の向上【再掲】 |
|-----------------------|

*** 再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します**

- ①エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用
- | | |
|---------------|--------------------------|
| ア 燃料電池自動車等の活用 | イ 再生可能エネルギーの活用およびプロモーション |
|---------------|--------------------------|
- ②環境に配慮したライフスタイルの推進
- | | |
|---------------------|------------------------------|
| ア 環境に配慮したライフスタイルの推進 | イ 3Rの推進や、食品ロス削減の取組の、世界への情報発信 |
|---------------------|------------------------------|
- ③みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進
- | |
|--|
| ア みなとみらい2050アクションプランにもとづくスマートなまちづくりの推進 |
|--|

*** 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します**

- ①MICE機能や客船の受入環境の強化
- | | |
|-----------------|-----------------|
| ア MICE機能の強化【再掲】 | イ 客船の誘致・受入機能の強化 |
|-----------------|-----------------|
- ②ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ア 企業立地における、横浜の魅力の発掘・構築 | イ 外資系企業誘致に向けた効果的なプロモーション |
|------------------------|--------------------------|



ラグビーワールドカップ 2019[™] 東京 2020 オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部

平成 29 年 4 月作成

(事務局) 横浜市民政局ラグビーワールドカップ・オリンピック・パラリンピック推進課
横浜市中区港町 1 - 1

E メール sh-olypara@city.yokohama.jp

電話番号 045-671-3690

F A X 番号 045-664-0669

ウェブサイト <http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/>

横浜国際総合競技場の会場整備状況報告

横浜国際総合競技場の会場整備の状況については、次のとおりです。

平成29年11月17日現在

整備項目	内容	契約（予定）額	
1 照明設備の更新	競技用照明をLED照明に更新し照度を向上をします。	26億7千万円	
2 フィールド床の補強	照明設置に伴い大型クレーンを使用するため、トラック部分の床を補強します。	1億8千万円	
3 ラグビー競技にも適した芝の整備	決勝戦を含む複数試合の使用に耐えるハイブリッド芝を開発・育成します。	1億3千万円	
4 安全・機能確保のための保全等	①～⑪の工事等	53億9千万円	
内 訳	① 競技用放送設備更新	2階天井スピーカーの更新	2億5千万円
	② エレベーター更新	高速化・バリアフリー化	2億8千万円
	③ 特定天井改修	法改正による天井の改修	6億8千万円
	④ 空調設備更新	個別空調設備の更新	1億8千万円
	⑤ トイレの増設	4階コンコースメイン及びバック部分のトイレ室の改良、男女共用多機能トイレ増設	5億6千万円
	⑥ トイレの改修※	4階サイド部分、5階、6階のトイレの洋便器化	5億8千万円
	⑦ スタンド改修※	1層目のVIP席、記者席、一般観客席（メイン・バック）の更新	5億3千万円
	⑧ その他照明設備の更新※	諸室及び外周部のLED照明への更新	6億6千万円
	⑨ 映像装置の改修	大型映像装置の改修及び大型映像を補完する表示装置の設置	4億6千万円
	⑩ 電気設備の更新	人工地盤のアンプ・スピーカーの更新、電気室の改修、電話交換機の更新、BS放送への対応、光ファイバーケーブルの敷設	4億9千万円
	⑪ その他設備の修繕、設計委託、工事監理等※		7億2千万円
契約（予定）額合計		83億7千万円	

※ 整備項目については契約手続き中の工事等が含まれています。

【参考】

平成29年度事業費		83億7千万円
国庫補助事業費（補助率1/2）	（平成28年度12月補正予算を29年度に繰り越し）	75億9千万円
市単独事業費	（平成29年度予算）	7億8千万円